慶應元年

御書付諸達

内閣文庫
和書 類 號 冊
一八〇函 二〇架 三冊

内閣文庫
和書 類 三一文一號 三冊
一八〇函 二〇架

内閣文庫
番號	和 3161
冊數	3 （ 1 ）
函號	180 106

国立公文書館
National Archives of Japan

御書付諸達

慶應元年

内閣文庫
和書 類
號
三冊
一八〇函
二〇架

106

内閣文庫
和書 類
三一六一號
三冊
一八〇函
二〇架

内閣文庫
番號 和 3161
冊數 3 (1)
函號 180 106

国立公文書館
National Archives of Japan

慶應元丑年

御書付類

従七月

書 九九 廿三 號

内閣文庫
和書 類 號 冊 架
一八〇 函 二一〇 架 三三 冊

右者前々和泉国々播磨江書付之通相達候、猶又此度者書付之趣[illegible]
少来[illegible]諸品之儀者[illegible]之通[illegible]
右和泉之義者此度申渡書付之通相達候[illegible]
順達留より[illegible]可被返候

七月二日

奉行[illegible]

和泉摂津在々江申渡書付写

六月廿日

関東八ヶ国ニ而作出候菜種・綿実油稼方之儀
関八州外在々ニ而売買致候儀者勝手次第たるへく候
然処右稼方之者共近来[illegible]申渡[illegible]共[illegible]

当未作ニ付、書面追而可差上候、関東筋見分之上 [illegible]
[illegible] 相願候者有之候ハヽ、猶又 [illegible]
[illegible] 御普請之 [illegible] 右之趣 [illegible]
右之趣 関東八ヶ国御領・私領・寺社領 [illegible]
[illegible] 之 [illegible] 右之趣 [illegible]
[illegible] 右之通 [illegible]
[illegible] 相触候 [illegible]
[illegible] 上 [illegible]

右之趣関東御郡代伊奈半左衛門殿え被仰渡候ニ付
可被相触候者也
右之通可被相触候
六月

[illegible] 七月廿日 [illegible]
[illegible]

未八月二日 増上寺
慈徳院様御霊前 御廟所 [illegible]

御朱印改相成　御進発中ニ付
御代替ニ付而御朱印改被仰出候旨御達ス

七月

七月七日戸川播磨守殿より差出候様申来候ニ付、御請書写差出ス、右者
御朱印之儀ニ付中村甚右衛門より差出候御請書
差出候御請書写
写ヲ以別紙御請書差出候
差出候御請書写

七月廿一日
差出候御請書写

戸川播磨守

「此書ハ追而出ス」
大目付江

放生会　御法事

七月
十八日　初日
十九日　中日
廿日　結願

覚

一　当月放生会御法事中気分ニ付通達候

一 立合目付衆一ニ可仕候旨縄掛り手ニ成候節立会
縄掛候心得之一ノ為心得可申事
一 御法事中普請鳴物穏便法事ニ付不及停止
事
御法事中為伺御機嫌於賀中納言殿其表
ニ有之候ニ付松平肥後守西丸代大坂御城代より
飛脚差立一有之候
御進発中ニ付飛脚ニ而差立雖御用番ニ掛候

使者を以御機嫌一座伺候ニ付中納言殿其表國
表邑ニ有之ニ付差立候ニ付時節柄ニ付使者差上可申候
差出候
但松平肥後守西丸代大坂御城代より差越
御津坂表より御法事中御伺候
差出候
右之通一ニ承知候
七月
一 御法事中

一 和宮様
天璋院様ゟ為御機嫌伺中﨟松平肥後守
去ル十二日到着同様大坂御城代ゟ御菓子
御水菓子之内一籠下置候旨
右之通一二三日御精進明之御肴被遣候旨
七月
和宮御方御使
覚
松平縫殿頭

右之段当年御例之通 御暇伺之節
御城内御用中大坂御城代出御例之通
勝合ニ而可相勤候旨ニ而一二三日迄之事
七月十日和宮御方御使者登城之節遣候様被遣候旨
被仰渡候旨返答
覚
一 当月廿日御法事之節
御霊前
御名代 出席仕候様被仰付 御香典并御菓子等被遣

夜前夜ハ一て性崩来之友ハ長様ノ不て私ヽ其様ニ付条
諸仕候ニ付此度ヽ其様若ヽ念様一旦御取計ニ付而ハ御尋言
本間事之内込合候ニ付加方様御奉行ヨリ可申
之事

覚

一 壱万石以上之面々此度香奠献上ニ付候 深惟子長
様之 寺ヨリ御?之通江可献 方ハ丈ニ而献
上之事

一 壱万石以下寄合以上之面々ハ深惟子長様ニ御目付之
寺院之内 奉行之通江可献 方丈ニ而取扱之事

一 此外之面々ハ惟子? 深惟子長様ニ而 奉行所ニ而
門衆之通江可献 方丈ニ而取扱之事

右之通当月廿二日迄献上可致候

御香奠献上之覚

一 白銀 拾枚 壱万石以上
一 同 五枚 三千石以上

一　同三枚　拾五両宛

一　同弐枚　又五両宛

一　同三枚　三十両宛

一　同弐枚　二拾五両宛之備

一　同三枚　拾五両宛之備

一　三百五十両ツヽ　御香志　御法事之節万端御布施

一　白銀三枚

以上

此目録之通ニ付、其書写壱通差遣候間、
其意得可被遂其趣候、以上

七月十二日　戸田能登守

増上寺

崇徳院様　御霊前

御廟所ニ　御香典一ツ宛被下

御当日ニ　御代参として御当日　御進被下

御年忌法会之節ハ御年忌之通御一中ヘ被下候

右御施物ハ同様御渡被成候、以上

一 七月　　新見右近

右七月十二日清屋敷ニ而京都ニ而一件清治等ニ返上仕候間相改候
此者儀差支八十年二付

高力忠三郎
長門中務

此書付
清水御奉行
土屋二而通ニ候

細田丹後守

別紙花房右近亀井隠岐守相願候ニ付右之段申上候
被為御渡候ニ付右之通申付候ニ付別紙
可被差遣候尤別紙申付候ニ付当月中ニ御差遣候様可被
成下候以上

　　七月

右之此書付
清水御奉行土屋二而通ニ候
御断ニ付申上候
御奉行之通申上候以上
　七月十日
　　　御目付
　　　　清水新助

右御書付之通十一月中ニ返上仕候ニ付右之通返上

此儀ハ

此為心得申上置候

御目附衆へ
[illegible]
御[illegible]
[illegible]守
[illegible]守

本紙 御勘定奉行へ相渡候[illegible]

[illegible]
右之通[illegible]
[illegible]

右之通御達[illegible]ニ付[illegible]返答[illegible]

一 御渡答

此書面之通相渡可申候

表御右筆衆

御目見
御勘定奉行格
大村五郎

右者去戌年以来[illegible]御勘定所[illegible]
同年十月[illegible]
返納之[illegible]
[illegible]
[illegible]
右之通[illegible]中[illegible]

御勘定所出役之者普請之儀ニ付右之段申上候

被仰付候

七月　　堀隠岐守

右七月十一日御老中松平伊豆守殿江差出候処御同人御附紙ニ而御下ケ

元長崎奉行　中川飛騨守
御勘定奉行
御勘定組頭

田中秀平

右之長崎奉行江之儀宣之通被仰付候様御書付

悴義出府御役替被仰付候ニ付御褒美被下候様奉願候

有之候処御国之内ニ而　御目見以上之儀ニ付御書付

作付之者御褒美被下候様奉願九郎左衛門御書付

細川越中守御書付差出候間御含

七月

七月十五日右之通御渡被成候由

田中秀平殿御渡候御書付

御褒美被下候様

御附紙之通

出立いたし、然所右之通被仰付候ニ付、此段及
其筋方々へ御届申上候、尤此節右役之者関役
並二　御用番御老中へ御届申上候ニ付、御届申上候
儀ニ御座候間、此段御届申上候、依之御届申上候
以上

丑七月

御留守居
[illegible]

右書面大村丹九郎様御用番御老中方へ御届書
丑七月廿日御持参被成候、御用番ニ而御請取被成候
御同人より写被成御届有之候

御書面大村丹九郎殿より御用番御老中へ被差出候ニ付
御届申上候、然ル処右御書面之義御用番御老中へ御届可被
差出候、然ル処右書面御届之義御取扱ニ付
御座候処、同様之儀ニ付、仮屋ニ御届申上候
有之候ニ付、其段御取扱ニ相成候様
可然、御書面ニ御手札を以御届申上候、依之
右之趣御達申上候

丑七月

御留守居
[illegible]

去月十二日御渡之証文ニ相見候ニ付大判座之者江被仰付
相渡シ申候処　　　半分者後藤方江
之後藤江相渡候段、書付を以御届申上候処
是ハ可被下候
申上候
以上

大判座
年寄　後藤源三郎
　　　加藤五兵衛

右者大判座ニ而明キ候ヲ以引替候分大判之事

右書面源三郎五兵衛ゟ勝之助十郎
江相渡候大判壱万枚之内
之大判直段之分大判壱万両之月限ニ
引替之儀申上候　以上

安永二巳年三月廿九日
大判座
年寄
勝之助
七郎

右後藤方之大判
請取申候　以上

十二月

十二月朔日御用番御老中より御達之　内藤紀伊守

小笠原和泉守殿御渡御書付之写

覚

近来御用向多ニ而勤向之儀ニ付被仰出候儀も有之候ニ付

此度諸向ニ而も右之趣相心得御奉公向之儀無之

様可致候事

第一之事ニ付心得違無之様可致

中川飛騨守

右之趣可被相達候事

十二月廿二日近藤被仰渡候趣

水野和泉守殿御渡御書付写

十二月廿日

一 御用番御老中明後廿二日登城可有之旨

一 六拾艘ニ

七月

一 紫野御留守居迄 紫野二百疋宛被仰付候ニ付 御朱印

四座様方被成御渡候 御礼申上候 大目付

有馬兵庫頭殿 御同道被仰付候 二十二日

御礼申上候 御奉書を以被仰付候

七月廿六日

外 御祐筆

右例前々より 寛永年中 御書付 御座候 ...

一 御老中 御用番 ... 上様 ...

右同断 ... 被仰渡候

明後廿二日 御本丸 御表 ... 上候

七日 ... 被仰付候

七月

此度 和田 ... 御座候

| 御用番 ... 大目付 ... |

以上

私領ニ而茂其筋ゟ申付候処を以取計候ハヽ
支配ゟ相達候上取計可申旨申付候
可得御意候　以上　　　年　月

七月　日

右之通ニ而先達而被仰渡候趣ニ而取計候得共
此度猶又申達候ニ付而ハ御目付江可申達候
私領之儀ニ付被仰渡候覚書別紙写之通ニ候間此段も心得可申
猶又相心得可申候

七月廿日

此度私領之儀ニ付被仰渡候覚書写
当番
大目付

覚

万石以上武備之儀兼而被仰出候処近年弛ミ候ニ付武備相嗜
候様被仰付候　勿論被仰出候趣相守嗜候様
被仰出候間弥無油断可相嗜事
猶又

一 右紙面之上可申達候事

肩

右ニ付其節何等無之候ハヽ差支ニ付而ハ御申達候

表御右筆衆

一 御同役

右寛政度以何年何月何日何役より目見之節御用被為在候
小役且役替持高何人扶持被下候儀ハ御書付之通相心得申候

御目見
御右筆衆吉賀坂長兵衛
石川忠兵衛

書翰ニ而申越候御同役ニ之事

七月

堀田摂津守

右七月廿八日水戸中納言殿御勝手御座候処、去る十九日ニ付相伺候処、御指図之通、書翰ニ而申達候様御沙汰ニ付申達候、以上

七月廿一日
水戸殿ニ而御沙汰書翰申遣候様申上

御右筆部屋
大御番頭衆

附札
〔御右筆[illegible]ニ付御勝手[illegible]年正月廿七日[illegible]之処御役[illegible]〕
七月
［illegible］

一 太月廿日

八朔御祝儀雅楽頭殿ニ而申渡候旨自筆写ニ而差上候事

一 可相達候

但御本丸中小姓ハ未御答ニ不及一段長ク北面
近様候て申上ル

一 去酉年ニ而紀州様御縁組ニ而御太刀馬代献上
ニ付使者ヲ以被仰出候処右御使者江返ニ付白銀五枚
右使者白帷子壱反此方申渡ニ付従夫被下候而
候も右之通御老中様方江相伺候処此節御奉行所
可被成ニ候右之通申上候
但右者御中ニ而は右御旨之通不申
相済申候

一 御進発ニ付為御祝儀御太刀馬代一ヶ条
献上仕ル

一 和宮様
天璋院様ニ献上物之儀ハ於国許聞召候旨
被仰出候

右之趣万石以上之面々江不洩様可被相触候

右者昨年之御書付

七月

寄親保科弾正

当七月十六日御寺社奉行ニ而被仰渡候旨留守居中より申

秀平七八年中ニ而接待ニ而者九ヶ所被請之
其以後ニ而上手ニ而相済候御聞伝ニ御座候
之様ニ而右之者共ニ成ニ付而此所何者ニ候哉之
御尋ニ付委細申上候ニ付下知有之候也

八月朔日

覚

新ニ被召出候者之二月四月ニ而二人接待
同十月ニ而九月ニ而追而十人接待 同十月

新ニ而当七三月ニ而迄七人接待ニ而相済候
接待并ニ其外ニ而相済候御聞伝ニ御座候
右ニ而書之諸所ニ而候ニ付 又被仰付候者共ニ而候ニ而御座候ニ付
其相談ニ而候ニ付右月日

其海辺ニ而鉄炮鉄ニ而御座候年来長崎御番衆并ニ而和
近年諸国ニ而出方并ニ茶請ニ而定置候ニ而右様之人ニ而相叶
御座候ニ付而向後不念ニ無之様被仰付候 買置候而
人之相対買置之儀者御座候ニ而精出し

右様御座候ハヽ
右之趣御方々へ御届之科ニ被成候様御座候
可被成候
十月

御留守居衆

富貴見
御与力衆
細谷藤助

書遣候処先達而申
右八月晦日ニ被成候ニ付候処ニ而御座候ニ付御方々へ相達申候
右書付之趣十七日御渡之中御座候由承知仕候
奉存候

御留守居衆

富貴見
御蔵番
新之助
大坂組頭
上村友之進

右廻気付取ニ遣大砲組勤方之義ニ付先年之通大砲組
之義取扱候
右八月十日御勘定奉行海防掛大目付御目付江相達候書付ニ而差出候
此節之者江

御目付
　[illegible]
　[illegible]
　久貝[illegible]
別手組頭
　池谷織部

右蝦夷地之儀ニ付御渡相成候ニ付組頭共江
御勘定所ニ而大目付御目付衆江申談候様
右八月十日和泉守殿ニ而御達ニ付大目付御目付衆江申談候旨ヲ以御渡
書達之儀承知之ニ付写置候
右同十三日池谷織部申聞候趣承知仕候
[illegible]
[illegible]
[illegible]
以上

観行院事
観行院様

宮之御方御降誕ニ付御祝被進物左之通
一 干鯛 壱箱
右者御広敷番之頭ヲ以御留守居江相渡候事
〆 御目録

謙徳院様御附 御年寄 進之候 右之段 御年寄 [illegible]
謙徳院様 [illegible]

御年寄衆江寿土産 目録之通 被遣 御用番 [illegible]
御事ニ付 御進達可被成候 以上
五 八月
猶以 御附 御年寄ゟ 御目録 [illegible]
御伝 御進達可被下候 以上
右八月十日 謙徳院様御附 [illegible] 御座候間 [illegible]
御年寄 [illegible] 返却

貴方ゟ御座敷之外ニ而も御請取被成御下可申上

和宮様御方御渡ニ而書付壱通相添を御渡ニ相成候之書付写ニ而御座候

拾壱月十五日壱両年二分ハ請取申候段相違無之

御ノ内ニ而此段申達候以上

八月十八日

松坂御飛脚ニ而被遣候ニ付書付写相添差上申候

年寄役

可被成下候以上

和宮様御方御渡ニ而書付写

六月廿七日

以上

和宮様御定書　鋼行院様今度写上可被遊旨

月ニ而定式年々十二月二日迄之間ニ而被遊候事

八月十八日

貴人御渡御書付写

六月廿七日

和宮様御賞翫　鋼行院様今度写上可被遊旨

八月

和宮様御為ニ付　御格禄並御方之御品之取計事

且又先キへ使者ヲ以[illegible]出之上國[illegible]ニも可申
聞候事

一 領地之内ニ而[illegible]之[illegible] 停止書付[illegible]
右之通[illegible]可申候

八月十日

御留守居

各様御書付[illegible]尚又[illegible]
[illegible]

御留守居

[illegible] 御書付[illegible]尚又[illegible]八月十日より[illegible]御[illegible]
[illegible]
御書付[illegible]之

八月

八月十日[illegible]精[illegible]
寛[illegible]

御留守居

鉄炮改[illegible]

八月十八日

一 忠中判　中根

右之通ニ付右之通ニ而死向ニ而右之通ニ

此書付飛脚ニ而差越候ニ付此書付之通取調候様以書付相廻候
ニ而申上候早々下ケ札之通取計可申候

此書付之義御承知ニ付当丑二月廿六日ゟ同八月十日迄
此段相達取調相達候様相達候

御勘定組頭

当丑二月十六日請取勘定所勘定組頭　御附札

支配勘定世話役
関谷源三郎

支配勘定取扱勤方
田中秀平

当丑二月十三日御勘定組頭　御附札

御勘定組頭
山田年之助

当丑二月廿四日右之通ニ付支配勘定　御附札

[illegible]

一 本年当丑三月廿一日 御目見被仰付御医師見習被仰付

堀伊賀守家来
長谷川英

御目見被仰付
御番医師見習

主膳正家来
多紀一学

本年当丑三月廿九日寄合医師之内 被仰付

御番医師

本年当丑四月朔日寄合医世話役 被仰付

主殿頭家来
福井近作

御番医師
小普請組
加藤英三郎

本年当丑五月廿七日御役御免 被仰付

元御番医師
見習
石川完一郎

右之写閏四月十八日　御目付松平[illegible]殿ゟ　御渡し

[illegible]殿
佐山三郎左衛門
市川源三郎

右者酉六月廿八日御書付を以被仰出候　御渡し

右之通可被得其意候

丑四月
[illegible]殿

丑四月十三日御伝達左之通

[illegible]殿
奉行中

当六月中上書[illegible]殿名大村幸九郎へ[illegible]
右ニ付[illegible]書面[illegible]
[illegible]之[illegible]
[illegible]可[illegible]候以上

[illegible]

以上

新規ニ當年七月より青山ニ而御鷹場方
之御用ニ屋敷壹ケ所相渡り候事

龍口評定所より相達

此度根岸表ニ築立之東西四十間御的場
八幡山續ニ塁壁土手門形并御矢来取建被為在
御門囲之形陰地江付キ相之武家御蔵形取建
り今度者大門陸ヨリ御貸地へ被仰付候様
桐野用組ニ付桁板御書付ニ付可申候

事ニ候ハヽ其儀不浅様可被申付候
右之趣万石以上之面々江不洩様可被相達候
右之通可被相触候

八月

右之通大目付江相達候ニ付　何も可被得其意候
向々江も可被相達候　右之趣万石以下之面々江不洩様可被相触候
之趣可被相心得候

八月十九日

當八月廿二日清水御殿御用ニ付御道具類持運ニ付日限
金高者銀子ニ而下ケ渡候間御用捨之迄印

去子六月ゟ同十二月迄
御目見以下之場所より　御目見以上ニ御取立
相成候者ハ　御目見以上之事故　御譜代席ニ而
以て引続　経歴之者共之通　御譜代席ニ被成
下候ニ且亦永々
御目見以上ニ被成　又者御役之者共之通可被成候
依之此段申達候
九月

小笠原若狭守

八寸

御目見以下何役
御目見以上何役何年
何月御取立　何月ゟ
何役　何之誰

八寸

御目見以下何役
御目見以上何役何年何月御取立
御譜代何役何年何月御譜代席
何役　何之誰

右之月番小笠原殿ゟ御渡之書付写　御取扱振之儀ニ付問合候処　右之通書付之通ニ而可然旨
被申候

水野和泉守殿ゟ御渡ニ付　右之通可被心得候事　達

引続相達候様支配之もの江も可被相達候事
可被相達候事　一橋大納言殿御写
九月廿日
覚
公方様より　御精進候處
和宮様より志今日より被為　解御精進
被為　解候事
九月廿一日

右同十七日戊刻頃より御下り候處今朝より御出立
之事
御普請奉行之儀此度御普請之御用御進達候ニ付先年之振合
御取扱可申達候事
九月廿七日　戸川播磨守
寄合（？）諸向並御普請役被仰付
御目見以上被申渡候
御門之御普請之儀御普請奉行より申渡候間
御普請方一手之者共并手伝之者共江も申達候
一右御取扱之儀先年之振合を以可被相心得候

一 右振合之義ニ付差出候書付

九月

右ニ付当時御書付を以申渡候ニ付追々御沙汰可有之旨
承り候処、別紙之通差出候様
御沙汰ニ付、返上仕候
其外常之丞義九月廿一日申渡候ニ付、右之趣を以申上候
殿中ニ而堀田摂津守殿を以御書付相渡候

右之

九月廿日

清水讃岐守

御当番老中

諸向
担当寛司

元御書院番
松平若狭守組
吉田半十郎

高木主水組へ入

右之通別段申付候ニ付、御書付を以申渡候間、右之趣
相心得、吉田半十郎へも申渡、一同可心得旨
其方共より可申渡旨被仰渡候ニ付、右之段申達候

一 以上

丑年十月

小普請組支配

一 宮貢出入帯之事

本多賀紀之進書写利兵衛道具之儀ニ付被申渡候事

以上

九月十日

右儀之儀ニ付書面之趣〔illegible〕相達候儀

新田〔illegible〕御書付〔illegible〕通可被相心得候

〔illegible〕

九月十一日

広田隠岐守

大岡〔illegible〕

平岡〔illegible〕様

小笠原壱岐守事 去ル四日於大坂

老中格被 仰付候旨被申越候事

格之趣 可被仰付〔illegible〕

九月

右之趣〔illegible〕

達之

一 〔illegible〕 以上

青木〔illegible〕

一 右之通可被相心得候事

〔illegible〕

以手紙致啓上候

半紙札

金四百両

内六拾両貳分銀弐匁

二百六拾両程ハ左之通

青木縫殿 當歳七十七歳

右之通御座候ニ付申上候

九月廿二日

以上

右方ゟ申上候ニ付御下知當座返済仕候見届

申上候得共先達而申上候通申上候

右之通相違無御座候ニ付御書付差上申候、以上

右之趣御書付之通相違無御座候ニ付猶又御返答

申上度如斯御座候

九月十六日

竹本伊勢守

覚

右御願之儀ニ付、去ル寅年以来返済之儀申上候

其後ゟ去ル寅年分返済ニ付差上申候

返済之儀ニ付去ル丑年中返済之儀ハ当方

申上候返済之儀ニ付右之通返済相済申候

一 去ル寅年返済之儀相済申候ニ付申上候

一　此節下り候ニ付何卒見物之儀宜御取成可被下候
為御共ニ登城致度候ニ付此段御披露被下度候
右之趣御頼申上候　以上
九月

一　禁裏御所御所々方々
大目付へ
相模殿御門雅楽頭・本多中務・松平和泉守ゟ達し　御聞届

一　和
自身の往来ニ成候并上使老中若年寄之程ニ候儀ニ
右之趣ニ付候出役之者ニ候ハゝ右之
御老中ニ付被仰付右之事件有之候
則其段申聞万一不行届之儀有之候ハゝ
不相達候
九月
一　右今月廿七日禁裏御所御所司代江被仰達候儀ニ付
一　御所司代より相達候得共能々相心得可申候

一 水野和泉守殿御渡し書付写

四月四日右京大夫殿ニ而

右同断

駿河
三河
遠江
信濃
美濃

遠江国周智郡山住村
熊野権現神主
山住大進

右當社之儀往古より御祈禱為相勤来太平之御代ニ至迄
可勧化 御免許ニ而遠国之勧化致候処
當丑 十月より来ル辰年中 御神社
并社殿再興ニ付前書之国々巡り候間信濃ニ而寄附
多少ニ不依志次第寄進之儀御代官私領
願之通拙者より可申渡候

丑九月

右之通可被相触候

九月

一 去九月十七日於二條御城達之趣御請書

一 尚々御返書並集

十月廿八日老中御用番より御所御口上御達

御所司代御渡之書付寫壱通并ニ同様之御達

可被差出候右之通ニ御座候

右之通り

竹中丹後守

松平肥後守殿

長防御所置并ニ御用掛り　御書付之寫

去様為御用去ル十五日六ツ半時御前ニ御座候

大坂御城

御上洛遊被見ニ一同御所ニ御之條御取掛ニ相成

候処去ル十三日於大坂表　御達之趣御返答ニ

可被下候

右之通ニ候

御老中より海陸軍之方御達

海陸軍御陸軍奉行並ニ御目付等被仰付

一 陸軍総裁ニ而御所ニ被仰付於大坂表　御座

一 右之通向ニ而ても有之

九月

御目安書札

裏書之写

此目安差上候 御相役中へ申上候 [illegible]
[illegible] 御[illegible]候 [illegible]
寺社奉行
御勘定奉行
町奉行

右御目安御相役 御勘定方ニ而 十一月廿日 御裁許之事

御相役中 [illegible]
寺社奉行
御勘定奉行
[illegible]
町奉行

不相成候ニ付御裁許之上 御裁許被成下度候
御奉行所様

右月廿日評定所御裁許 [illegible] 月廿日 [illegible]
御裁許ニ而 [illegible] 相違無之候

佐嶋要元

陸軍奉行

第一 佐々木藏人

赤松左衛門世話役

遠藤修理

福井藤三郎

佐山盛之丞

小川勇三郎

高橋長八郎

三浦修理

別手組出役

柳原三郎

前田猪之助

佐久間兵衛

高柳彦三郎

一 定日之外仕候ても刑法学科ニ通シ試候ハヽ右者参校致シ宜候て

一 壹人学科経冊試験ハ本文之限り

御取扱当番ニ而下々致候事

一 講釈輪読試験之日数ハ書限日数ニて書之 若述書

一 三名跡右校ニ而簡条共経冊ニて取扱可申事

一 日々稽古試験之上ニ而試験之廉ニて二三科ニ而試験之可成様ニ取計可申事

但 諸学科ニて諸事御小隊等 当番ニて不小読

便用小隊等之砲術ニ而六ヶ所 加入 便利燎砲等

此二件之内必試可申候、若右之二件共相兼申度者ハ
継合仕候ハゝ学術兼備之者試可申事

一 経史書漢文撰文又ハ和漢文之試可申事

一 諸般職役之一郡之内何ニ而も又ハ御徴章之掟法之儀
不残全郡之内ニ而試候事

一 経済之学ハ諸般職役之試可申候事

一 諸芸之儀ハ和数学天文科大砲科中ニ而其試候儀ハ
得手次第出来候儀ハ何ニ而も勤候者ハ其事

一 此度入用之ニ而ハ撰挙被為参事
右之者共当年之処ハ相分候得共向後ハ学問吟味之節
相応之儀ハ出来候者ハ格別之業ヲ以試
日限之儀ハ追而可申付候 以上

[illegible] 九月

吟味之科目

騎兵

西洋馬術

同刀槍使用

騎兵運動ノ筭木

歩兵

小銃手前

銃槍使用

歩兵運動ノ筭木

大砲

カノン手前

モルチール手前

大砲運動ノ筭木

此外三兵共

皇國各國之地誌歴史并西洋兵書共外西洋兵學ニ

入用之書

右原書并和文譯書漢文譯書講釋飜譯勝手次第

數學　時務策

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

右之月十二月二日御渡當座達候ニ付別紙之通相達候一々承知候
右御下ケ札之通被仰渡奉承知候　以上　御下ケ札之通

有馬阿波守
大久保加賀守

「此節ゟ二十五日

御進退御伺之儀ハ切支丹宗門ノ取扱ヒ窮追ニ
御座候上ニ而書付を以伺出候ゟ之ニ付迷惑ニ付
元来御役之内ニ而伺出候儀ニ付
御手当之儀ニ付御沙汰有之書付を以被仰付候
相成候ニ付御取計ヒ之通り達候儀ニ而有之候
御進退御伺之儀ニ付猶又追而相済候ニ而其上ニ而可申出候
十月中御老中江申立候ニ付承知

四月

一 京都諸役人共之儀　口上

其元之儀去年之通ニ而差出十月晦日迄
御目付衆同所中之儀ニ茂
有之候ニ付去ル迄ニ申付江戸表へ相伺
差遣申候之儀申遣候様ニ而

右之通

一 御城中向之御触書承知候事

九月

右者目付中より之達書参候得共諸大名衆中之儀
付而相伺候処御承知之通申付候

諸事承知申付候

右 目付衆中

一 右之書付写差遣申候
御承知可被成候
九月廿日

以上

覚

一 異国人之儀ニ付、長崎表御用之儀者、不及申ニ候得共

御書面御勘定奉行御尋御座候ハゝ

早々御付之御致出可申上候、以上

丑九月

御勘定奉行衆

一 写本儀
御蔵被
書之候件

於公儀御番被成候上ニ而通之者、御届候者、是迄御座候

去年作事奉行御頼候得共、御指図被遊候ニ付、御月番宛

雅楽頭殿ゟ申来候、御同役衆ゟ御尋之節

早速ゟ右之趣ヲ以、作事奉行衆中へ可被仰

御達候様、可被成候、以上

津田駿河守

九月廿日

右九月廿日之附、御勘定奉行衆ゟ達ニ付、右之御書付懸ケ差出候
右者、右之趣書付を以申上候

一 兵庫通歩兵組之儀
 壱番中隊小隊

「此嶋番兵元

陸軍奉行

軍事方
佐賀兵書
石川 組
隈八郎 組
 三橋常作
 大多喜 組
 三宅文作
橋本源太郎

陸軍役々相願候ニ付業前試候ニ付来ル九日
朝六ツ半時三番町歩兵屯所ニ而試験有之候ニ付
此段可被申達候 以上

十月

右十月二日夕刻御書面拝受之翌三日早朝ニ右
御人々江申達候処御承知被成候 段承知候

一 十月二日 御達之趣早速申渡候処
書上 并別紙写相添

右場所之儀者見分之上御普請一同申上候処可然旨之

十月廿日　　戸川播磨守

小栗上野介

一 [御書面之振合]

川々御普請ニ付当丑年御代官両丑年見分之上御普請

別段御普請之儀者当丑年も右同様之割合を以

不申上候ニ付右之割合を以御普請入用

給知共一同割合之振合を以御普請御用途

之儀取計候。

丑九月

去子年東海道天竜川　大井川　安倍川　富士川

酒匂川　并相模川　千曲川　犀川　御

普請ニ付国役入用之儀伊勢三河遠江駿河

伊豆相模甲斐信濃国甲州郡内領高百石

ニ付銀拾九匁九分宛国役掛り候ニ付

一 右同断関東利根川　江戸川　小貝川

鬼怒川　荒川　烏川　神流川　通御普請

ニ付国役入用之儀武蔵下総上総常陸

一上野国ニ而高百石ニ付銀弐拾九匁九分九厘ツヽ宛国役
掛り候筈ニ候
一右同断下野国稲荷川大谷川竹鼻川渡
良瀬川通御普請ニ付入用之下野国ニ
而高百石ニ付銀弐拾九匁九分ツヽ国役掛り候
筈ニ候
一右同断越後国保倉川関川阿賀野川
矢代川飯田川信濃川通御普請ニ付入用之
越後出羽国ニ而高百石ニ付銀弐拾九匁九分ツヽ

国役掛り候筈ニ候
一右貸金　公儀ゟ御貸金と申ハ去ル午之十分一也
候　公儀ゟ出候加へ候而右国之御料私領寺
社領共ニ書上之丑年関東御料村々ゟ差上
同十月中迄ニ御代官私領村々名主年寄百姓
両人ニ而ハ其上ニ而御勘定所ニ而月番限り右ニ付御
御納ニ而有之候事
一寺社領之儀ハ御料私領ニ而差出来候ハ御代官又ハ其筋
名々私領ニ而差出候ハ地頭ゟ取集差出

右之通一ヶ所限之書上

一諸国并以之御領私領海辺村々有之掛り

以之者右之掛金納并海上之儀

浅草之儀無之候得共此節ニ者見分も有之

右御定之右書上之文案之通書上候

諸国手形者御承之書付御勘定奉行

一ヶ所限之事

丑九月

御勘定奉行

右之外東海道筋ニ而天龍川大井川安倍川

富士川酒匂川并信州千曲川犀川並

御普請ニ付以前ニ而保護三河遠江駿河伊

豆相模信濃甲斐駿河等高百石ニ付限

武蔵又者右之国役掛ニ候ニ付

一右同断関東筋利根川江戸川小貝川鬼怒

川荒川烏川神流川渡良瀬通御普請ニ付以前

武蔵安房上総下総常陸上野国ニ而高百石ニ付

一 根曲堤九知九分宛出役掛り相勤候

一 右同断 御普請役 ... 川 大井川 ... 川 波良
瀬川 通 ... 堤ニ付 ... 入用高 ... 高
百石ニ付 根 ... 九分宛 国役掛り相勤候

一 右同断 鍬場 保倉川 矢川 ... 川
矢作川 飯田川 ... 川 通 ... 弐
入用高 ... 出羽 ... 百石ニ付 根 ... 以下
宛 出役掛り相勤候

右入用金 公儀ゟ御渡金之儀高ニ付金十分一ツヽ
限 公儀ゟ御渡し 其右高ニ御料私領
寺社領共其書付之通国役金村々へ
割付之月十月中迄ニ御代官私領地頭奉行
所ゟ差出ス ... 其人々ニ内ニ ... 金同年十二月
晦日限 右同人方ニ而上納之事

一 寺社領之分御料私領ニ十ヶ年宛之高役銭
取集候而 私領ハ 地頭ニ 取集

一、是又右同人方ゟ一二三之事
浄瑠璃本并正本と唱候絵草紙等方之
掛合ニ付
右之掛合納方海上ニ而絵草紙之列代
書物ニ而海上渡紙借用ニ而右紙仕候得共
宛等ニ而右紙摺仕候分是又書本紙書ニ付
私共代役請取手形右添状書面之通相違
無之候様可仕候事

年 月

何某 印

覚

一、浄瑠璃本何部内
一、同 何程
但浄瑠璃本込高共
一、同 何程
但右同断
〆合 何程

何国何郡
何ヶ村

何国何郡
何ヶ村

一 何寺領
何社領
高何程

一 何寺領
何社領
高何程

寺社領高合何程

外
此高役限何程
定免何程

但 高百石ニ付
限何程
去亥六拾有

何国何郡
何々村

何国何郡
何々村

此高役限何程
定免何程

但 右同断

惣高合何程
此高役限何程
定免何程

但 近頃常免
限座也

右者去子年何国何郡何々川ニ而当主寺何国
高役定免何郡何村之寺社領之分先高
丑年納分書面之通ニ相違無之候御代官何之

一 従是ゟ在国中ニ而之

年号月　　御勘定奉行　　何之誰印

松平安芸守殿御領分伊予国寄合町ニ而右之通申渡候　錦部某

十月三日

松平安芸守殿御家来某
御勘定奉行
右同断
大目付

公方様右同断為御用

天機　御容体　内匠頭御目見之節　御機嫌

御病気御快然之事ニ而御機嫌ニ而候事　御容体

大坂御城ニ　御前様ニ而大坂城代ゟ被仰渡候

十月

松平安芸守殿ゟ申達候ニ付家来某江申渡候
御勘定奉行
右同断
御目付某

松平安芸守殿御家来江書付を以申達之

一　てらまゆくハし之

十月日

御関所

寛政[illegible]年十一月

四御見習
佐山主水
三嶋源世平

此書下ケ札ニ而記し

右御門大炊渕江[illegible]四里ニ而是迄往将

何通り候様致候ニ付何卒是ゟ候ニ付何月[illegible]

上[illegible]御門[illegible]ニ而且何年何月迄ニ何[illegible]

右御[illegible]之御[illegible]御関所[illegible]番

十月　　松[illegible]

御[illegible]番所[illegible]

御[illegible]御[illegible]大元十[illegible]

[illegible]渕[illegible]之[illegible]文[illegible]

[illegible]二[illegible]

[illegible]

和[illegible]

十月

新庄右近
小俣積之助

右十月十七日出帆ニ而[illegible]御用[illegible]ニ付[illegible]

表御右筆部屋より御下ケ札

御書面之趣御目付[illegible]調役并ニ[illegible]
調役之[illegible]百之[illegible]
[illegible]百[illegible]之[illegible]
[illegible]
[illegible]九月
[illegible]七月

廿八日御書付之旨調役並ニ而調役
出役 御目付ニ而[illegible]

丑十月　　　佐々木[illegible]

右十月八日[illegible]

「御届書ニ付」

陸軍奉行

陸軍[illegible]業[illegible]

明九日三番町[illegible]

一、十一日和田采女正殿より被申越候ハ
来ル十二日御用有之候間、罷出候様申来候ニ付承知之旨申遣ス

十月八日

大坂御城代より使者ヲ以被申越候ハ、御用之儀有之候間、家老壱人
来ル二日罷出候様申来候、依之家老壱人罷出候処、御書付を以被仰渡候
此段御書付ヲ以御届申上候

十月十日大坂御城代より御用之儀ニ付御呼出ニ付罷出候処
水野和泉守殿御渡之御書付写壱通被相渡候
右之通ニ而御座候ニ付、此段御届申上候

十月九日

戸川播磨守

阿部豊後守殿より松平伊賀守殿迄
被仰渡之趣、当月宿継ニ而申来候ニ付
御役所迄申達候

御書付写壱通相添差出候、御用之儀
右之趣ニ而御座候
右御届申上候、以上

十月

一右同月廿五日之手形之為并經冊
就夫右達書之趣右之通御座候
以上拙者方宅迄ニ而右之通ニ

十月廿三日
御宗門御役人

清白織部

御同人様
御取次衆
西之寺
福田要次郎

御廣敷伊賀者
市右衛門忰
飯尾右衛門

同添番
萬右衛門忰
武元奉右衛門

御留守居
同心役添番
西丸御広敷伊賀者
長田新右衛門四男
市川四郎

右之者共儀以之外不届至極ニ付
急度御叱りニ而寺社奉行所へ遣候
旨申渡、猶又御沙汰之上可被申付
旨之趣一通り、切支丹之儀ニ付遠島被仰付候
右之通被申渡候間、是又御達申候
十月廿二日
小俣福太郎
新井太助
御名前御中

右之通十月廿二日以飛札申越候ニ付、相心得可申候
其段御達申候
以上
町家之者共ゟ書付を以申出候趣、委細承知致候上、御沙汰可申上
町奉行社寺奉行相談之上、右一件之儀取調候処
掲示被仰付候
十月
右相済候上、御沙汰次第御達可申候、以上

十一月御渡

一 十月廿日和泉守殿御渡候書付［二通右之通達］備中守殿江達候右之通以御届書差出
和泉守殿御渡之御書付写
和泉守殿御渡候書付写之通御達有之候而者不都合之義も可有之候間［illegible］
御達之通承知之旨御請書差出候様可被致候

十月廿六日

津田［illegible］

水野和泉守殿御渡候書付写壱通

一 百目

松平肥後守殿 江戸［illegible］

法政事法相成候ニ付 御用有之候 差出
不容易御用向ニ付 松平大膳大夫始 伏見十分ニ
手当致し 御用
右之通有之旨 相達候ニ付 御用有之
以之外［illegible］可被相達候

十月

太田［illegible］

小笠原左京大夫殿 右者松平長門守［illegible］
紀 仰付候間可被相達候

十月十六日

覚

関円願之知行所之内ニ而古来ゟ船割ゟ御蔵納
有之候処、右関所此品者其外共不残無滞船不通ニ付
利根川鬼怒川通船之儀ハ利根川通迄ニ而訳
御用向之儀一事も渡世差支候ニ付関東筋ニ而
先年ゟ御代官江申渡置利根川筋村々船留候ニ付
該当船之儀ハ可被仰付候ニ付不残差上申候

之段ハ御勘定奉行へ申達候処差支有之間敷旨ニ候
右之趣関東御料私領寺社領へ不洩様可被相触候

十月

浅香信濃

[illegible]
[illegible]
[illegible]

「御品書看板」

右之通御触有之候ニ付御公儀様御触流之通相守可申候
若又御触ニ相背候者於有之者何時ニ而も御咎可被仰付候

右之趣御老中被仰渡候旨今日御目付衆より被申越候

御中小性ニ申付候ニ付以来[illegible]

十月

右十月十七日御屋敷ニて[illegible]被申渡候

謹而承知仕候[illegible]

之右[illegible]

[illegible]

覚[illegible]

[illegible]

右之通[illegible]

月十八日

内[illegible]

和泉守殿御使ニ付中村[illegible]遣し被申候

右御使者之通[illegible]御返答被申候

十月廿八日

平野六右衛門

水野和泉守殿御使者ニ付御返答

六月廿七日

此度[illegible]被成[illegible]

御家老[illegible]

一 右之[illegible]一橋中納言殿ゟ

一 御役替御補闕之節　係出引而
十分之　御助力有之候旨
伺出候
右之通相当致之十月廿日　伺書差出候処
同廿六日以書付御下ヶ被成候
十一月十七日
右申渡之御沙汰相済候旨佐渡殿ヲ以被仰候
申渡相済候事

「出火之持場」

廿日

右日限之通於芝御殿御門前等為御見廻候様可申渡旨
明ケ六ツ時ゟ出役仕候

高山主殿組
市川四郎十七

一 差配ニ付紙上上下控ル上ニ而拝見仕候ニ付手紙写上下
之拝見仕候段申達上候拝見仕候
差配之方ニ而

但上下着用之儀不及羽織袴ニ而罷出
可申候事

一 四書五経小学全部持参之事

一 右読書之儀人数多ニ付当日ニ至り其節ニ而当日ニ
御城相勤候者ハ其日非番之者ニ而相勤候様
而も不及拝見候共当日差出候事

但御目見以上之者ニ而も当分相勤り候様相届候
其之儀ニ而新規之者共申出之事

一 若父母之忌中ニ候ハヽ二十五日相過候而当日読
月代剃不申忌中之者ハ忌明ニ而も罷出候段月代
不相成候儀ハ御目付衆ニ而忌明之上罷出候様

其之儀当分之書物ニ而も苦しからず候事

一 読書之儀相調持参之事

一 右段之者共相揃候ハヽ其段当番之者ニ而申出候

追而申出候事

右之通相心得可申旨被仰出候間可被申渡候

十月

新庄右近
小俣嘉太郎

礼学

此書付ハ先日読書吟味ニ付
右段之者共相揃候ニ付当日差出候
御徒衆之儀も其段申渡候

御目見以上
以上之者ニ

去ル十月十九日箱根御関所ニ而差上候書付同日箱根宿ニ而
之儀ニ付左之通相渡候ニ付而差出候御関所御手形
且箱根御関所ニ而被下候御手形ハ先方ニ而預置
候ニ付此段申上候以上

一 御答

右箱根御関所入用之儀御答之事

十月廿二日

表山源兵衛
寄合肝煎
池永直次郎
木村今之助

右十月十九日箱根御関所ニ而差出候書付写

右書付
書面之御答之趣承知致候
池永直次郎殿へ相渡候間承知可被下候
木村今之助殿へ相渡候間承知可被下候
右書面之通割符相渡候間承知可被下候

十月廿日
寄合肝煎
池永直次郎

松平殿御渡之書付写ニ而差出候趣承知致候
右之通ニ付此段申上候以上

十月廿七日

御勘定奉行

此旨和泉守殿江可被申達候

八月廿八日

松平周防守事病気ニ付道中

帝鑑間席ニ而　仰付候

右之通於京都去ル十六日　仰出候

其段可被申聞候

十月廿二日

右之趣松平肥後守ゟ申来候ニ付可被相達候

十月廿六日播磨守殿ゟ松平和泉守殿御渡被成候御書付写一通

松之間御用番江返上

和泉守殿御渡候御書付写壱通別紙之通ニ候

右之書付写取候依之書面一通致返上候以上

十月廿六日

戸川播磨守

此節和泉守殿御渡候御書付写

「御留守居江
大番頭江

大目付江

当春元来之御趣意を以御留守之者共内風説之儀

中組合之御勘定中入金御用米二三人之御役
ニ而外立帰候ニ付之候ニ付右通り候様一く承候得ハ無據
別而難儀之一く承知之上候其趣訂申之ことの見分
申付捕之候ニ而又町年寄ゟ一く承知済ニ而御領
之もの違候ハヽ之二宮尊徳申達

丑十月

右之次第之通り中済候ニ付宮中済し而も
右之次第之来右之承知一く承候得ハ

萱見役當申中　　戸田能登守

萱見役之中ニ當分候御用相勤候得共相勤候處ニ付差遣
置候ニ付御用之申達申之様ニ而申達

十月十三日

右之次第候ニ付候様ニ宮之通り申達し中之御座
右之能登守殿ゟ申之通り候之申達候

十月廿八日浅野[illegible]ゟ[illegible]左之通申

[illegible]

丑十月　[illegible]

上下拾張
[illegible]
[illegible]
同
[illegible]

[illegible]

十月廿八日
[illegible]

[illegible]

丑十月廿九日朝[illegible]

[illegible]

[illegible]

十月廿九日

戸田[illegible]

月番[illegible]
[illegible]
寺社方[illegible]
[illegible]

何之祐十郎へ相渡申候

丑四月分

一 燈油壱升ニ付 代銀何匁何分

一 胡麻油壱升ニ付 代銀何匁何分

右之通ニ御座候

丑四月

寄場 役所 下

寄場製油切ニ付段々之義今月ニ掛不申人足育

之段相立申出候請向ニ相成仕法之趣意

尤右方而七百石程之出来高も御座候ニ付月々手納廓

切ニ之ニ付候六之程同様ニ相成不申右之通

候ニ之ニ付尤桃油申ニ通り為実之ニ相成候ニ

ニ相成之ニ付之 之ニ相成候ニ付費ニ迄申候ニ而

油井之方ニ而ニ付候ニ付油井之方若御不用ニ而

ニ付之程相定而御達之ニ付ニ而御伺候

被仰出候以上

子十月　　　　寺社方

近頃寺社之事ニ而[illegible]月之内ニ毎ゝ願切手
相願候ニ付右之[illegible]月限之覚書[illegible]
[illegible]御朱印[illegible]前月切手
[illegible]御朱印[illegible]
[illegible]
[illegible]

一

被仰出候以上[illegible]

一[illegible]桐間[illegible]

[illegible]

十月五日

[illegible]

[illegible]

拝借金[illegible]

[illegible]

[illegible]

十一月六日

御城之事御修復入用拭下勘定所之書付

二日程二度ニ　御出之事

十一月

覚

今般御城之事御修復ニ付　御作事方ゟ御勘定

一御修復之上月節　坊主衆中

一御賄方ゟ入用之分相違之事

一段々上ケ候事

右之趣御達之事ニ候

中段

覚

御留守居御金蔵番衆中

戸田能登守

利銭之通とも来る候て相済候様之

十一月

[御留守居衆中]

御問合

覚

御金蔵番組頭

春日岩之助

高橋源兵衛

付札

御書面之趣御勘定所ゟ御達之通御修復御入用之儀

一通り御承知被成候

十一月

右之者共札一通り致し候間

同人者御留守居御番衆中

請取候銀高之内を以松平筑前守御蔵米
之内御払米四万五千俵代銀之内を以御米
二拾七俵之内都合七拾四俵右売払候
御世話仕候七拾壱俵右俵代金子御渡
被下候上ハ残り御米手形差上申候

巳十月

十右衛門

右之銀高を以御米請取候処如件
以上

右十一月九日差出候御同所へ相渡ス

十一月

松江出雲

鱸見

御家老中書

右之者寄合高御米御割合代銀被下候
当年月日ニ御渡振米形之儀御尋ニ付
御答之趣ハ御申文一通ニ而差上

十一月四日

御蔵奉行

彩色出張

出雲守刑部

△ 十二札

此書面ニ而ハ御勘定所ニ而書面ニ而御
以前御下ヶ相成候書面当年ニ而[illegible]
文久元酉年三月廿一日大和守殿
江差上候ニ付以前同年[illegible]書面之通当
御勘定[illegible]一[illegible]ニ付[illegible]御渡[illegible]
候得共[illegible]

丑
十二月

御役所

右十二月四日淡路守殿ニ而被下候ニ付[illegible]翌朝[illegible]
返上[illegible]

御書付写 [illegible]

御書付写 [illegible]御勘定所[illegible]十一月[illegible]
[illegible]
右御書付写[illegible]
[illegible]返上仕候

十二月四日

[illegible]

十二札

[illegible]

有[illegible]

[illegible]

覚

前之節之御修復御普請御用ニ付御附中之御用
事一
右之節ニ付御出被成候ニ付、御用之御入用之儀御見分
中之道具向之儀、平之下道之上、拝借
諸色之儀、前之儀被仰付候ニ付、御手当之儀、御取計可被下候
御入用之儀、平之年之御見分之上、御勘定所へ可申上候
中之節、見分之上、御用相済候迄可申上候一
右之通

戸川播磨守

養倉丹後守殿

前様組与力莫之助娘儀、早川平之進ゟ拙者へ懸合御座候
御目見以上被仰付候後、御用掛り組合之儀御用向之儀組頭へ
御届申上候所、御聞済之上被仰付候ニ付、御届申上候
右之段御承知被成、拙者共ゟ御挨拶可申上候
右之段御申達可被成候以上

丑十二月

堀田相模守

未十一月廿七日
戸川播磨守様
御用人中様
戸田采女正内
石橋 某

元丹波守組要人組英之助儀早川平之進ニ
御評定所ニ而縁組之儀申上候右者丹波守
組ニ而御用番様江願書差上仕置候処人
和 御用ニ付之振合ニ付以何分於
御申付被下候
御返答被成下候様御頼申上候

十二月七日

一 和泉守殿御渡御書付写左之通尤達之儀者
早々御達申上候以上
十一月十日
讃岐守

一 和泉守殿御渡御書付写
八日相成

公方様右ル御
二條御城
御参内御見

御小休之上淀川通
御座船ニ而大坂
御着座被遊候ニ付 御機嫌
伺一ト箱差上之

十二月廿五日

右十二月十二日蔵屋敷ゟ早飛脚ヲ以御留守居ゟ差越候段申越候
用役ニ而大坂留守居ゟ御届申上候

佐山嘉右衛門殿　陸奥守内
別紙武道之通り遣わし候よし書付差上候
有之候ニ付進上

十二月十二日

小札
写有
御返書十二日

陸奥守内
小畑
早瀬某

右之通り差上候陸奥守様ゟ御使者を以被仰越候

新古御帳面与吾持挂其外奉行組之者江成候此上ニ日中

右之人別帳面控冊　御勘定所差出候在之候

右之人数者此後壱人ニ而も相成候趣ニ候

十月十七日

十九

写書之
御届書之写

右者去未之書面陸運之様子ニ而此節之間取計之候

陸運中将
御届書
羽柴

右之人数之内役所ニ而相済候処一ヶ年ニ而万石以上之

明細帳冊　御勘定奉行衆江差出候ニ付右之段奉伺候

以上

丑十一月十日

右十一月十三日御勘定奉行右之一条之者共被仰渡候ニ付

御役所市中之者共江申達候者御徒目付

右之者共御役所江相達候日勤之者御届書

其外御役所之者共諸事取扱可申旨

右之趣御支配之者共江可被申渡候

十一月十六日淡路守殿御奉書ニ而呼状被下候ニ付罷出候処
翌朝御伺申上候
和泉守殿御渡被成候覚書写之通相違無御座候ニ付
右之趣承知仕候依之書付ヲ以御請申上候以上

十一月十三日　　竹本淡路守

水野和泉守殿御渡候御覚書写

御留守居
大目付

覚

御目見以上次三男厄介之者法場江罷出候儀も

御座候ハヽ　御番入之もの是迄之通又ハ見合可申候
御目見以上ニ無之候而も　御目見以上並之通
御手前ニ而取計来候分ハ　御目見以上ニ
無之もの次三男厄介之者も　御目見以下同様
御手前ニ而取計候処其振合之通相心得候
御目見以上ニ無之候而も　御目見以上並之通
御手前ニ而取計可申候
右之通向々江可被達候事

十二月

青木七郎右衛門儀小普請ゟ御書院番江被仰付候　　酒井雅楽頭

右

御老中御渡

御目付御談之上申渡

太田備中守殿ニ而

右之通可被申渡候

十二月十五日

戸田佐渡守

水野和泉守殿御渡御書付写之通相達候ニ付　　牧野備後守

右之通可被相達候

以上

十二月十七日

　　津田播磨守

千坂伊豆守殿御渡御書付写

御目付

覚

松平備前守知行所之者共相願候ニ付、右之者共同所ゟ差越候

城下江通行之者共、右之通相心得、以来右之通取計可申旨

被仰出候段、此度御書付を以被相達候間、右之通可被心得候

御修復之儀ニ付申達候事

十一月

和宮様御殿御座之間之儀ニ付御手当之儀申達候処御開きニ付御届

一ト通申達候

十一月十一日

溝口讃岐守

出羽守殿
大和守殿

返札

御進発御中之儀ニ而ハ御普請御延引ニ相成候得共

右御殿之儀ハ兼而御手当被仰付候儀ニ付是迄之通被成度候

日光御門跡御宿坊之儀ニ付御修理之儀御願之趣ニ付

是迄之通取計候様被仰渡候処

右之通取計候而者不容易御入用ニ付

而已ニ而ハ不行届候事

十一月

右者御普請奉行申聞候趣ニ付御書付を以申達候

是者御修理御入用筋ニ付御達し置候

小野出雲守殿へ

出羽守殿
大和守殿

大目付江

諸役人ニ遠国御用被仰付候ハヽ御沙汰次第御暇被
下候節ハ人馬等被差遣候事ニ候得共右之分者最下
之御沙汰ニ付相当ニ而難相成候段
之者御目見以下之者右ニ付遠国御用
ニ有之候間併御取扱之儀者追而被仰付候事
ニ付右之通可相心得候
右之趣可被相触候

右書付写十二月十八日臨時遠国之儀ニ付大目付江
相渡候処右之趣申渡候様可被申渡候

〔出雲守ニ渡ス〕

昌平黌
勤番組頭
学問所教授方出役
市川四郎
十七

右ハ十九日五時学問所江罷出候
右之趣申渡候ニ付文化之通可被相心得候
有之候節ハ右之通申渡候様可申達候
以上

十二月

去十二月十八日證文差上候ニ付先年之通ニ而者奉行所ニ而
御帳面ニ而遣
　　　　　　　　　　　　　　　　　　新庄右近
　　　　　　　　　　　　　　　　　　中根播之助

右者浦口出帆いたし候ニ付先年之通御船ニ而遣
[illegible]
[illegible]

十二月廿日　　　一[illegible]

[illegible]城[illegible]ニ而[illegible]
大目付[illegible]

御出役[illegible]馬[illegible]遣
[illegible]桜田馬場[illegible]和田倉[illegible]桜田門
[illegible]両[illegible]合羽
[illegible]和[illegible]
[illegible]

十二月廿日　　　浦口出帆

[illegible]

和[illegible]
[illegible]
[illegible]

十月十八日　竹本淡路守

此書付御目付江も御渡ニ不及候

大目付江

覚

無宿者　城内并御曲輪内江立入候

大名衆下々之者共江申付候ハヽ無宿

者立入候処ハ不及申御曲輪内ニ而

御目付衆入念候様心得可被申付

ニ而被申付候様可被致候　無拠

向ハ其段可被申達候

十月

今日稲葉兵部大輔殿御渡候書付写

相渡候間御承知可被成候右ニ付

候ハ其筋江可被申達候

可被成候以上

十一月廿八日　竹本淡路守

松平周防守殿被仰渡候　御用番御渡之書付

写壱通相渡候間御承知可被成候以上

十一月廿八日　戸川播磨守

公方様益御機嫌能被遊御座恐悦御礼如斯候
然ハ御儀之為御祝儀以使者申上候以上
同十九日
自面
御用人中
御留守居中
当番御用人中より之奉書到来致拝見候
ニ而私ニ而申遣候迄之処ニ申上候以上
同廿日
竹本淡路守

右同日播磨守殿淡路守殿へ御逢之上御勝手
判書ニ而相渡御断申候
和泉守殿御渡ニ御書付御達之趣承知仕候
右之趣可申達候以上
十一月五日
溝口播磨守
右御書付御渡之節御別紙申達
（御届書并御礼）
右同断

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二月廿日 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

毛利大膳父子伏罪之儀ニ付[illegible]

去月[illegible]日[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]上[illegible]

利[illegible]

[illegible]

十二月

右之通大坂表[illegible]

達[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

松平[illegible]

[illegible]

[illegible]

松平[illegible]

井伊掃部頭

[illegible]

二ノ丸
若年寄
出張
同二ノ丸
目付
大坂ニ出張
御勘定奉行

掃部頭殿
榊原式部大輔
同 [illegible]郎
松平三河守
同 [illegible]
松平左近将監
同 [illegible]
松平[illegible]
同 [illegible]
松平伊賀守

出張
一ノ丸
西丸[illegible]
出張
二ノ丸
大番[illegible]
出張

右[illegible]討手

同 田中[illegible]
服部[illegible]
同 [illegible]
[illegible]
同 [illegible]
松平大[illegible]
同 [illegible]
永井[illegible]
同 石川八郎

鷹場
先日拝領
出張

先年御拝領
内人数多差遣
相成候

一 三月十三日
拝領
出張

土屋寅討手

二月二日
同

鷹場
同断

中之関討手

松平周防守
同 松平大和守
松平出羽守
同 酒井左衛門尉
紀伊中納言殿
同 尾張殿
水戸三郎
松平隠岐守
松平式部大輔
同 若狭守

伊達遠江守
同 伊達五郎
松平阿波守
同 松平土佐守
奥平大膳大夫
同 瀬川三郎
松平丹後守
同 金田直(?)
細川越中守
同 笠原某

一　三百文
岩城ニ出候
右弐百文ハ
会所出候

二　三百文
岩城様貫
出候

立花飛騨守
同　安藤対馬守
小笠原左京大夫
同　松平右京亮
小笠原遠江守
小笠原壱岐守
同　丹羽[illegible]
松平周防守
同　小笠原大膳亮
松平肥前守
同　酒井[illegible]

中川修理大夫
同　小笠原[illegible]
松平主殿頭
同　[illegible]
松平大膳大夫
同　[illegible]
有馬中務大輔
同　[illegible]

霞
同断

萩ニ付候

一　三百文
岩城様貫
出候

二　三百文
同断

右之通ニ　御達ニ而　松平[illegible]　松平[illegible]

一新井關所出來之義、右之人数是迄之通一段召
連之面々差出候様ニ可致事
附 御書出之事

一御中軍之内番組之儀、書記出張候番組
御先手引替候張番之儀
附 御書出之事

右之通被仰出候由、此度御達之通、渡邊殿ゟ
御書付写之通、申達候間、此段可被得其意候、以上

[illegible]書覚

寅十月
御書付
新庄殿
同
板倉
飯田

右之通被仰出候由、書付写相達候、
已上、[illegible]
[illegible]
以上

丑十一月

右十一月十六日遣候ニ付度々遣

蓋之札十一月廿四日
貼紙之通御渡
可被相心得候

札之写

近年百姓共之儀一統
日々相増候由申候
然処出産
之人相替

草履取
召抱之儀者
新規ニ而
被仰付候
御停止之義
壱人
拾弐

右之通相守可申候
若相背候者有之候ハヽ急度可被仰付候
丑十一月
右之通可被相心得候

和泉守殿御渡候御書付写之内ニ有之候ニ付
十一月廿日御渡候御書付を以御達之
十一月廿四日
手紙ニ而渡候写

和泉守殿御渡候
大目付江

万石以上之面々国元之内一萬石以下
相延候貢献御書付ニ而停止之儀
期ニ至候而者日限之処御極メ置候而ハ

一石須高より金ゟ取出高数々拾五万石
以上二万拾万石以外ニ一萬元勘定積高帳
ゟ高右須ゟ租下ニ被仰付
右之額面万石ゟ之之而ヲ以下ニ候

十月

当四月日光
御法會ニ付日光道中筋并道通
御成道　例幣使并東海道中山道

梶井宮御諸堂ニ付為武家之面々ニ差遣
し并御宮々修復之人馬其外御旧当差
出御用人本御用之遣八州并御料私領
令出之ニ国役金之分　御府内并武蔵相模
安房上総下総上野下野常陸
伊豆駿河三河遠江美濃伊勢ニ而
都合十六ヶ国ニ割付当巳七ヶ年之
巳年迄五ヶ年之間ニ年々百石ニ付

公儀江御上ケ申候永二百三拾九文余元年ゟ十二月迄
不残納相済候村之義ハ元年十二月迄ニ
不残相納候申候寄宅之内ニ而御取
川御蔵納ニ相成候義去ル当申ゟ御取立
新田新村ニ相成候旨達被仰付候事
仍而右之通之趣ニ而高拾石余之年賦ニ
差延候様奉願候 以上
右之通御下知奉願候

十二月

井上河内守殿御判形御渡 伊奈友之
助殿伊豆国御代官所 伊豆国田方郡之
内遠州志太郡之内ニ而御取計可被成候以上

十二月廿六日　戸川播磨守

覚

右之趣御勘定所江御達可被成候以上

十二月

御書付写

留守居
御小姓組
大番頭出役
若年寄衆御渡

諸役人

右御用向有之候ハヽ以来之通り
御三丸表江罷出申達可被申候
但御用之儀ハ可被申談候

諸人

右十二月朔日和泉守殿被仰渡候由同人[illegible]候

諸向ニ而茂其支配より此旨申渡可被申候
右之通

右之趣御年寄衆より被仰渡候間　御勘定奉行[illegible]
達有之候ニ付此段申達候[illegible]
[illegible]
[illegible]

十二月日

御勘定吟味役

別紙三通十月廿日遣之候処右之通手紙遣置候処相済候

寺社奉行

松平右京亮

浦上膳所守

五月近江守

井上信濃守

南部日光

御法会ニ付遣来ル節脇坂淡路守殿へ相願候処相済候ニ付

三通相済候処御国役之義者相済候ニ付尚又御伺之通御請ニ付

取置候御届之儀者相済候ニ付先達而御引合被下御国役之

御願并御免状返納之義相済候ニ付此段御届申上候

了承仕候付可被

御法会ニ付御用懸り御沙汰之節南部出雲守日光出立ニ付右之通

相成候ニ付書付を以御届申上候処御聞届相成候ニ付相済申候

右之段御届

出雲

南部出雲守日光

御法会ニ付遣来ル節御届之

今般ニ付御手当御国役之御願之通相済候ニ付

相成候ニ付村高百石ニ付壱ケ年ニ壱石余取立候儀
当巳年ゟ来ル巳年迄五ケ年之間相続仕候様
一右国之内　御料所并私領ニ而諸色之
三ケ所ゟ御役免除書出候得共当分之御普請所ニ付是
御入用弐拾川鉄吉郡ニ而出来之儀ニ付御入用之義を
壱ケ年之内十月ゟ上吉郡ニ而勤ニ而当年之国役
除ニ相成候而村役人共之内吉郡ニ而当分迄之鉄河国
何郡何村何村（郡何ヶ村）何村村高之内何十何人迄当何

迄何百ケ村之内何年何月幾日ニ而何年何月幾日迄当分
御入用吉郡ニ而被出遣之候間右年当迄可書付
中御除書取書出ニ付吉様ニ而書付可申上候右村高当分
之御請ニ而相続仕候ニ付右書付之御尋之儀ニ付誠書付
出精可申上候御承知御通書被仰出候趣之
相成候ハ、積立之儀ハ出来之御用ゟ申上之御入用成候得共申立候
然ル上ハ御吉用之儀村方ニ而御差支之儀ニ相成候様
右郡村ゟ町ゟ村ニ而出候日限ニ付手形并何ヶ村庄屋名主

一、右者去卯上納ニ不足仕候拾壱石三斗余ニ御座候而一両分

百文掛り御役所ヘ被仰付、依之私共ゟ願上候所、

御聞済被成下置候ニ付、御請證文差上候処、

右之残り七ケ年賦ニ被仰付、年々上納

仕候、猶又村方ニテ取立、年賦上納仕候事

一、右者年賦之儀、相続之為ニ被仰付候所、

何卒年延被成下度、右之段書面之通御願

申上候、右之趣被聞召上、御下知可被成下候、

一、右国役上納方之儀ニ付、別段書付ヲ以申上候、

此度被仰付候ニ付、右之段御尋之節ハ

可申上候

巳十二月

掛り御役所

中川平兵衛

福田新五郎

覚

流作場何程之内

一 高何程　　何国何郡　何ヶ村

此流作場迄此度改出新田ニ成

一 高何程　　何国何郡　何ヶ村

此流作場之内迄此度改出新田ニ成候分

一 高何程　　何国何郡　何ヶ村

外

高何程ハ　迄何国何郡何ヶ村国役ニ付

未年ゟ未御下ケ

高合何程

此国役之分何程

猶又ゟ

諸掛何程

外

村高百石ニ付[illegible]何程

此[illegible]何程

此[illegible]包

何宗寺地

一 高何程　　何国何郡　何ヶ村

此 何神社 神主 何某

何宗寺 何寺院 何ヶ寺

掛り高除之

一 高何程

是者何国何郡何村内何々依有之
除地ニ而古来ゟ当御代迄書上候
之迄前ゟ之分ニ而古来除地

何国何郡
何々村

一 高何程

是者何之高ニ御座候所当時御料私領之分
除地川欠永荒地ニ而新田古来除地方

右之品ニ而其年より先
御除地之分ニ而除地之ニ前々ゟ之分ハ国役

但右御料之内新田
一村限御除地之村高之
内ニ而除地之分
御改之上書上候以上

一 今村方高反別之儀去卯年御見分ニ而御改ニ而当年迄
当年ニ付当年之分者御除地相成候ニ付当年ゟ書面之通
御除地ニ而前々ゟ之何月御改御吟味何ニ而御除地以上

年号月

何役
何之誰印

何郡之御所

一 高何程
是者何国何郡何村之内何々依而之
借地ニ而当寺修覆料ニ書上置候処
今迄右之外出作仕候
何国何郡
何々村

一 高何程
是ハ何道中御伝馬宿入用ニ付差上置候分
御松川地面ニ而御勘定所ニ当寺修覆料

右之分毎年相見
何道中宿入用之儀ハ御当役ニ而毎々回役

初入用之儀ニ付ニ而当寺修覆ニ付
何村限御伝馬宿入用ニ付申上候
右之外ニ而右分ニ而ニ付右之
御当寺修覆之儀ニ付ニ而申上候

一 合村高何石之内之分右ニ相渡置候分毎年何程ツヽ
出作年々右年ニ付相納之儀ニ付右毎年何書面之通
右之通相違無御座候何月何日何之誰ニ而申上候以上
右之通相違無御座候

年号月
何郡之村
何役
何之誰印

本陣役渡度請書差出候ニ付、此段此者共ニ而三百両宛被下之旨
被申渡候ニ付、此段申上候、以上

〔四〕月廿四日

川崎宿
問屋
年寄

本陣役儀書面之趣ニ付、差支無之候ニ付、此段御届申上候、依之願書差上申候
前々より年々相勤候ニ付、此段御届申上候

十月二日

新宿本陣

右之通御届申上候ニ付、東海道川崎宿本陣役儀ニ付御届申上候、八月
御用相勤候ニ付、此度右之段御届申上候、右御役儀相勤申度奉存候
前々より新宿本陣ニ而相勤申候、御用向之儀ニ付御届申上候
以上申上候

寄合
内藤熊五郎倅

右願之通小普請入被仰付、家督無相違被下置候旨、申渡候ニ付、其段御書付を以申達候、尤此段可被相達候
〆人ニ可申渡候事
十二月十七日
右ハ小普請組支配ゟ可申達事

手嶋八蔵
寄合
内藤熊之助
青柳英助

内藤熊五郎
願之通小普請入可被申渡候事
覚

小普請組支配可被申渡事
右十二月十七日達之、松平伊豆守殿ゟ被仰渡候旨、右名代之者江申渡候、右之者共御役料等之儀申渡候
右者御書付之趣、御老中ゟ被仰渡候ニ付、此旨可被相心得候
明日御用之儀有之候間、右之者ニ可被達候
十二月十四日
水野壱岐守
右月番ニ
関門ニ而鉄炮之儀ハ、入念可改旨、右衛門佐ゟ可申達候

向後右体之儀御代官并新田候ハヽ
右之寄合之儀先規之例ニ候得共御代官ハ　仕舞
能々相改吟味之上ニて御代官衆中より差出し
申付候　右御村々役人共より相改申候
一　御代官所之儀ハ出張可致候
一　公事訴訟之儀ハ右村々出入御代官ニ而御裁許ニ不及候ハヽ
右之趣申渡候　以上　一　出入之儀ハ御奉行所へ可願出候
以て右之村々相願

一　御代官所并所ニ而御料所ニ而御代官ニ而支配ニ而
出入候ハヽ御代官御支配之者共ニ而之御裁許
之儀者
候ハヽ御料所之儀ニ而公事出入有之候節
先規之通御役所へ可差出候
地頭之御代官之儀
一　右之通
惣而先規上御用　関東御代官

木村甲斐守出陣ニ付　但右ニ付関八州廻り之者
并当分之通右之者共江申談之通万事右之趣を以
可被申談候事　御書付写

右之通関八州并御料所取締向之儀可被申付候

右相渡ス

十二月

右御書付甲斐守江相渡ス壱通

関東郡代ニ被仰付候ニ付　但御目付ヨリ先達而相渡ス

岩鼻陣屋江郡代木村甲斐守出陣ニ付　但
同国并武蔵国取締之儀ハ前々之通同人江申談候様
可被致候御料取締向之儀ハ一同申合万事差図を受候様
可致候一躰右之面々江相渡候間右之趣人数入用之儀
重立候者共陣屋江罷出候而右之趣申談候様可致
并右之趣申達候様可被致候
右之通上野国并武蔵国取締之儀人数差出可申候

御[illegible]被[illegible]各国[illegible]候様[illegible]

十二月[illegible]

二十日

右十二月[illegible]被[illegible]

陸軍奉行[illegible]

[illegible]

十二月[illegible]

溝口讃岐守

[illegible]

陸軍奉行

陸軍[illegible]

[illegible]

[illegible]精密[illegible]

[illegible]

[illegible]検[illegible]

[illegible]

[illegible]

好ミ候与申候者共ハ大砲等為致候得ハ一ヶ月限
り候而右者給人当分之内通し志願之次第ニ而
宜見合可申事但武器之儀ハ御貸渡可相成尤一廉
兵糧米ハ可相渡尤帰陣之上ハ兵粮方江返納
之積右之通り一々申渡候事右ニ付夫々手宛御沙汰
之通り軍事御取扱之兵隊之内兵
隊を以而即ち相撫和ニ相成候様一兵隊御入
来候ハ早速相撫夫々中御達ニ可及候事

一　段々各地方ニ而追々当分御仕置之儀
ニ付御一新之上ハ猶更御沙汰之儀も可有之
候得共一同申合以後其軍役志願之
者共相撫候者一切之向ニ而諸藩御預
り之者等一ト先是迄之通り申付候
者相撫候様被仰出候事尚又
御国内一同申合之者共へ相渡候
向ニ而も右之外相違無之様可致候事
辰十一月

右十二月ニ御用番差出ス分ニ而有之

別紙之通御目付大久保筑後守ゟ申聞候ニ付御書付

以御書付関口可被仰付哉奉伺候

十二月　日　　酒井遠江守

御書取之内

御目付ゟ　　可申達

御目付衆之節者横須賀部卯

青木来年御出札被成候処遠藤様御談

中渡候　附添之儀相済候上一ト先中村

可被仰付哉

大久保筑後守

十二月廿七日

御書取之内

右十二月八日遠江守殿

月番右書付之通申渡

三月十九日御下ヶ之伺書之通可被相心得候事

御勘定奉行
神谷用之助

御勘定吟味方
大熊金三郎

右支配定書役並ニ而上京ニ被
差遣候処御用相済候ニ付扶持方書面附
御手当之儀御渡相成候様
御取計被成度奉存候

丑十二月

御書面之趣御手当之儀相伺候通
取計可申候且又御書面之附
之通取計可申候

上下　御勘定吟味方
大熊金三郎
丑十二月

三十二日御下ヶ之伺書之通
可被相心得候事
丑十二月

御勘定所

松平周防守殿家江之書付
河内守儀今度被仰付候ニ付御祝事相済
被為成候ニ付中奥ニ而御目見之上返
老中並ニ而之趣被仰渡候ニ付差控
可罷出候所ニ付先例之通御沙汰次第ニ
所ニ付中奥通掛り之通之趣申達
候間一通り御沙汰之上候ニ付御取計
出来候ニ付差出候様申候事ニ而
通り之通相済事　右之通ニ而相願候
右之通申上候

右之通り通路之通ニ而御沙汰被成下候旨
其之通之中奥ニ而御意之通御沙汰之
御沙汰之上ニ而御承知可被成候事
十二月
右之通十二月十二日松平周防守殿ニ而御渡
被成候　御渡之相済候ニ付御達可申候
内藤紀伊守殿御書付写御渡被成候ニ付
早々御達可申候以上
十二月十五日
戸田能登守

捕鯨関係之度出候ニ付差出置

覚

捕鯨表場所之三艘仕組ニ而漁場ニ而鯨漁業候ニ付

一　仲間之者共捕鯨方之儀者業前ニ而相守ニ而

出精之者共渡世ニ付事之外絶元ニ而異儀之者共

有之者共年々近在ニ而漁網有之相立候ニ而

取計候而漁業共ニ付古来相掛候事

右之通り相守候ニ而可申事

寺

右之通り其年々致事ニ近在之場所ニ而漁業共ニ近年之候

右之通り

高尾惣三郎

元宮寛治郎

吉木兵衛

右之者共ニ有之漁業致候通ニ而今般大金

組合入候ニ付漁業相立候様ニ相成候之上者

今般其年中漁業文ニ付大金相応ニ而可申

出張役御仕法御書付写

十二月十七日

右十八日朝御用番御老中より新規之達有之在中
寺社奉行衆上書付を以申渡候ニ付寺社奉行より被差遣候
中国筋宿之分取扱之儀支配請候筋ニ付

右ニ付十二日御達之御書付左之通

一 横須賀ニ於て御用之所御預ケ置候ニ付陸軍奉行

内大臣　御用ニ付出役探索方之儀ニ付御沙汰之事
右者人数之者共此度御用取扱候ニ付出役被仰付候
之御用筋出役御差支之廉有之候ニ付十八日迄ニ可申上候
不通候者共ニ而も其段申上候様可致候陸軍
出役之者共御用ニ付同役共一同相談之上可申上候
御用之趣者御用ニ付同役共一同取扱可申上候
之御用出役之者共銘々申上候様可致候
陸軍奉行衆より御沙汰有之候ニ付左之通

十二月

出役衆

右十二月十八日陸軍奉行衆より御沙汰之写

昇平丸所乗組之人員書付差出候

箱館奉行衆中　　清水淡路守

松前伊豆守殿家来より差出候人別書付差出申候

写相添此段申上候以上

十二月十九日

箱館奉行
羽山郷四郎

箱館奉行衆

右同十九日同所西丸ニて差出候

十二月十八日

右之通相違無御座候間御家来衆ニ申渡置候

此段申上候以上

此段申上候以上

箱館奉行
新六郎
竹内

右書付御渡ニ付被仰渡候旨申上候

御同苗十人揃罷出候而一同ニ
申渡候也　法事書付書付候様
右之十二月廿日竹本染太夫へ
十二月廿日竹本染太夫度々ニ而右之通被仰付候ニ付
御酒下され返上
今日節分ニ付染太夫度々病気ニ付御断申上候
御免酒被下候　竹本染太夫同人ゟ
有之候ニ付御書付ニ而申上候
御酒一同返上

十二月十九日

同苗拾人

竹本染太夫

長右衛門

御家老
年寄
長谷部

右者節分御掛之書付御用ニ付御家来之
通り年寄ゟ申上候ニ付
御申付之候ニ付

丑十二月

右十一月廿九日御渡被成候書付[illegible]致返上候

[illegible]

十二月十一日御用番[illegible]

松平[illegible]

戸川播磨守

去ル[illegible]安藤対馬守殿御同役方[illegible]

此度十一日[illegible]

[illegible]

十二月十二日

覚

[illegible]

[illegible]

松平周防守殿御渡書付写

御留守居江

本郷大曽四條西九条江差出候

十二月廿二日

右十二月廿二日書付御渡候處相渡候段者別紙書付之通ニ候

達之

写書見
御留守居
石川定十郎

周防守殿被仰渡候御書付写壱通相達候ニ付
早々御承知可被成候以上

十二月廿三日

秦殿ニ而

周防守殿被仰渡候書付写壱通

十二月廿四日

儀…

儀 … 付候御中若年寄中江被… 儀 …

不及候

一 寺社之儀
御進発ニ付当年ハ寺社方不為相勤候
一 手積町人勤役之内ニ而太夫ニ相勤申候
太夫継目ニ付不相勤候
十一月
当月廿四日御発駕ニ付御進発当日も寺社方御勤
返上仕候

富士見
宝蔵番衆中　　　済口證文写
同所御蔵以来御用之品御改ニ付当月中
[illegible]
十二月廿四日
御用番御指図
富士見
宝蔵番下番
東　　源助
御役金弐人扶持
内　御足高拾俵
御足扶持弐人扶持

実子無之候
卯六歳

右良蔵儀亡父跡式切米之内実子卯吉
江下置候付而勤方之儀御見分之上被成下度奉存候
以上右之通見習勤被仰付可被下候

御聞合

大御番方
深谷組
御目見以上
以上番
京　卯吉

右亡父良蔵跡目之儀切米御目録之通被下候
一　同人儀先達而見習勤之儀御目録之通
御書面之通済可申候
右之通ニ御座候以上
十二月

本紙
本書御切米之儀相済申候
御目見以上之御人数十二月迄相済
十二月廿五日
本紙写之通申上候
丑
青
御請

右十一月廿日御書付を以御勘定所江差出候
本書御札を以十二月廿七日御勘定所御下ケ御目見之通

此度私共座候出入御座候処出入書付差上申候松平周防守殿江御座候
申上候右之趣を以御懸合被下候様奉願候
上月
戸川播磨守
此度私共座候出入候
尤
諸向遠国御用并遠国役 御用先ゟ参り候ニ付
御役料等之儀古来より御定之通被成下候様
右之通御書付を以被仰渡候趣相心得

右之趣を以御掛合
被成候様致度此段申達候
上月
松平周防守殿江御座候
尤
此度出役ニ付御役御免相成候ニ付出役申付候
一万石以下御役人
侍
老人

草履取 壱人
挟箱 壱人
〆 御座候
侍 壱人
草履取 壱人
右者夜前長崎ゟ到着仕候段承知仕候
着
右揚屋ニ差置候間異変之儀無之様御取計可被成候

此度御用ニ付差遣候間宜敷御取計可被成候
此段申達候

御目付
長崎奉行
長崎奉行中

右長崎奉行ゟ差越候書付写御用ニ付被下置候
右長崎奉行ゟ差越候写ニ御座候

右ハ出羽様家来〔根岸〕御頼ニ付因幡守様御屋敷江差遣し申候間

宜御取計可被下候

因幡守様御用人衆中江拙者共ゟ宜敷申上候

此段為御知申遣候以上

十二月廿四日

戸田能登守内

松平因幡守様御家中御用人衆中

覚

此度人足〔四〕用之事御座候ニ付差遣申候間向後[illegible]

右者当地[illegible]御座候ニ付[illegible]

[illegible]

右[illegible]

十二月

右[illegible]戸田能登守内[illegible]

[illegible]

以上

当番居

加藤能登守殿
其外両人
服部重兵衛

京都町奉行江可被相渡候
右之者共御渡置候由申来候ニ付御渡候御書付
右之者共被渡候ニ付同人方江可申遣旨
御用番江申渡候

御書付写
加藤能登守
平太郎

十二月　伝右衛門

御持小筒組新番頭ニ而御手当之人数持
之内之
右之者共へ夫々御渡ニ相成候持小筒組一同被仰付
右書付御渡之和書面之通被成候ニ付御渡候様
御渡之儀者御用番江申渡候ニ付右之明日被相渡
御書付御渡之節右之内之者共江可申渡旨
右之者共之内御用之儀申付候

但門通事え相渡可申旨被仰付奉承知候ニ付右
諸品相渡申候

一 新米被仰渡候書付写并御添書写壱通
当月廿八日御役所ニ而御渡被下候写壱通写弐通
右者昨日之御請早速可差出処追而差上申候
以上

十二月廿八日

薩摩
　　　　役人

水野和泉守殿被仰渡候書付写
唐通事目付
大通詞
十二月付

来ル子年弐月十三日迄相勤候而者難相成候ニ付而
唐船商売仕候者有之候ニ付
御用相勤候ニ付
相支候儀無之様申付候
二月晦日迄ニ相済候様可致候

右之趣一万石以上之面々ニ而ハ不及触候
此段入御沙汰申達候
十二月
覚
未正月
朔日 泰忠大寺様
二日 同断
三日 同断様

一 前擬朔望之通ニ可出事
右之趣一万石以上之面々ニ而ハ一統ニ達可申事
十二月
出羽守右筆
出羽守書役
来未年御祝儀正月五日ニ付二日中無構ニ
右之通ニ付御祝儀之儀御玄関前中之口ニ通ニ
其筋御掛之振舞を以仕可申候 右御祝儀ニ一人宛

職分ニ差上申候ニ付、以来　被成下候ハヽ一宗様ニ
廃場ニ出仕仕度
被下候ハヽ仲仕共法式ニ相成、掛を通シ下ケ
浜方入用等相見へ無之申候
一 諸人参詣ニ相成候ニ付、壱人宛見世候事　被為御取
二人宛ニ入余場之事相、之通、尚更之義付
一 出来候様ニ見世申為相入候様仕候

右之通相願候ニ付、右之通り申上候事

十二月　　森鍋屋

右之書付通之者、難渋ニ付、右之通之儀、青方へ申達
遣し候、御聞済之上、願之通御沙汰被下
候様奉願上候

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan